

第2回 名古屋港カーボンニュートラルポート形成協議会 議事概要

1 日時

令和4年10月25日（火） 13:30～15:00

2 場所

名古屋港湾会館 第1会議室（Web 併用）

3 議事概要

（1）次世代エネルギー利活用に向けた取組紹介

中部経済産業局より、水素・アンモニア関連の足元の状況等について、また、豊田通商株式会社より水素エネルギーに関する国内外の取組についてご紹介いただいた。

（2）名古屋港 CNP 形成計画の骨子と考え方

事務局より、名古屋港 CNP 形成計画の骨子と考え方を説明し、名古屋港での温室効果ガス排出量の推計、水素・アンモニア等の需要ポテンシャル、カーボンニュートラルに向けた競争力強化方策等を示した。

今後、温室効果ガス削減計画、水素・アンモニア等の供給計画、ロードマップをとりまとめ、次回協議会において、名古屋港 CNP 形成計画（案）を提示することとした。

4 構成員等からの発言要旨

○船舶への陸上電力供給は、ゼロエミッション船導入までのブリッジソリューションであるということに注意する必要がある。

○次世代エネルギーとして水素とアンモニアが検討されているところだが、それぞれの製造コスト、保管・貯蔵方法、取り扱いやすさ等の想定はされているのか。

○船舶への陸上電力供給は、即効性のある方策と考える。港内に停泊している作業船への陸上電力供給の要望もあり、船員の労働環境改善の観点からも取り組んでいただきたい。

○脱炭素は世界的な要請であり、名古屋港としても港を利用する企業としても国際競争力に直結するポイントとして、できるところから取り組んでいくことが必要である。一企業、経済界だけでは限界があるので、国、自治体からもサポートをいただきたい。

○ポートアイランド利活用に関する議論も深めていただきたい。

○名古屋港が国の支援対象となるためにも、説得力のある計画根拠や内容について整理が必要である。それをベースにして、地域一体となり取り組んでいく必要がある。

○業種業態毎に様々な考え方・削減目標があることを配慮いただきたい。2050年カーボンニュートラルの取組みにはCCUS等カーボンオフセット対策も挙げられる。

以上